

組織目標評価報告書(平成30年度)

17-1

部局名:

大学院医歯薬学総合研究科 医学系

部局長名:

那須 保友

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標 第3期中期目標・中期計画の3年目としての教育領域の目標を設定する。特に教育の質の向上と担保に際してはグローバル化に対応した種々の施策を包含・立案し推進を目指す。 特に、「医療系キャンパスグローバル化プロジェクト推進会議」と「医療教育センター」の一体的運用を行う。 ①窓口の見える化、職種横断型組織連携可能な組織体系へと再編した医療教育センターの効率的運用と人的な整備を行い、教育領域目標達成のためのheadquarterとする。 ②医療系が一体となった留学生・短期研修生の受け入れ促進: 教育のグローバル化に関しては「医療系キャンパスグローバル化プロジェクト推進会議」が中心となり、部局におけるグローバル化に関する数値目標の持続的な達成を目指したプログラムの実施と新たなプログラムの策定を行う。	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 教育の質の向上と担保に際しては、特に、グローバル化対応として、医歯薬学総合研究科長を座長とする医療系部局長等を中心とした医療系キャンパスグローバル化プロジェクト推進会議(コアメンバー会議)を7月・11月・3月に開催し、医療系キャンパスにおけるグローバル化の各種取組の推進に努めた。具体的には、4月の中国・南方医科大学の来訪受入れ、6月のノルウェー・ベルゲン大学の来訪受入れ、7月の中国・浙江大学医学部生受入れ(岡山大学夏期プログラム)、岡山大学ミャンマー医療協力部(OMMC)の発足、中国浙江省人民医院との協定締結のほか、11月の第五回日中教育交流会「医学フォーラム」では本学医歯薬学総合研究科が司会及び企画等を行い、翌日には中国の医学系大学関係者の視察団(40名程度)が本学医療系キャンパスを視察した。また、2月には「多分野医療系学生人材育成プログラム」において、医学科・歯学部・薬学部・保健学科の学部生計10名をベトナム・ミャンマーへの学生派遣したほか、教育研究分野(診療科)等での外国人受入れ検討・事務手続き等がスムーズに実施できるよう、鹿田キャンパスにおける海外からの外国人受入手順を一覧に整理し、医歯薬学総合研究科ウェブサイトに掲載するなど、積極的な対応を図った。 ①医療教育センターの効率的運営のための人的整備として、平成30年11月1日付けで専任教授を公募により採用し、特にIR/IE部門の推進と全体のとりまとめを可能とする体制とした。 ②医療教育センターと連携し、海外へ学生の派遣と受入を推進するとともに、タイ、中国、ミャンマーなどからのシミュレーションフロアや施設見学の受け入れを積極的に行った。
①-2 年度計画との関連 年度計画と密接に関連している。	②-2 大学全体への貢献 医療系キャンパスグローバル化プロジェクト推進会議の開催により、医療教育の発展充実に向けた組織再編等積極的に取り組んだ結果、SGU指標の達成等の大学の目標達成に関し、積極的に貢献できた。
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標 ①大学院定数の充足 ②留学生・短期研修生受け入れプログラム及び数の増加 ③海外派遣者数の増加	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 ①大学院定数の充足(医歯薬全体の数値) 修士課程:入学定員20名、H30年度入学者24名、博士課程:入学定員128名、H30年度入学者(10月入学含む)148名 ②留学生・短期研修生受け入れプログラム及び数の増加(医学系のみ)の数値、H30年度新規の受入/派遣数) 修士課程:H30正規生0名、特別研究学生1名、特別聴講学生13名、グローバルプレゼンテーション0名、博士課程:H30正規生13名、特別研究学生1名、特別聴講学生0名、グローバルプレゼンテーション10名、外国人短期研修生:H30 0名 ③海外派遣者数の増加(医学系のみ)の数値、H30年度新規の受入/派遣数) 修士課程:H30 0名、博士課程:H30 4名
②研究領域	
②-1 目標 第3期中期目標・中期計画の3年目として研究領域の目標を設定する。特に、大学としての組織目標である、研究大学「岡山大学」の構築を先導的に牽引するための種々の施策を策定する。 1. 研究の実施体制ならびに実施状況 ①認定された医療法上の「臨床研究中核病院」としての活動を病院と緊密に連携しながら推進する。 ②認定された第3期橋渡し事業「橋渡し研究戦略的推進プログラム」の2年目として事業の推進を加速しつつ拠点としての自立化対応を引き続き強化させる。学外シーズの発掘・支援をより積極的に進める。 ③認定された「がんゲノム医療中核拠点病院」としての活動を病院並びに上記①②のプログラムと一体化して推進する。 2. 研究資金の獲得状況 ①外部研究資金等の獲得の推進:各種競争的資金の獲得支援を病院と一体となり実施する。 ②産学官連携活動の推進:研究推進産学官連携機構医療系本部の活動強化。 上記の取り組みを有機的かつ効率的に実施するため、またグローバル化に対応するために医療系等研究開発戦略委員会は、「医療系キャンパスグローバル化プロジェクト推進会議」と「医療教育センター」と融合的に活動する。	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 ・平成30年4月に施行された臨床研究法により臨床研究を実施する場合の取扱いが厳格化されたため、病院としても新たな取り組みとして「倫理委員会等認定制度」が義務化された。これにより特定臨床研究を実施する場合の知識が十分に得られ、臨床研究中核病院における特定臨床研究の推進に貢献できた。 ・橋渡し拠点として、中国四国地方の各大学へ訪問し、シーズ発掘のための事業説明・公募説明会を実施した結果、学外シーズは昨年度を上回る65%(昨年度64%)となり、着実に増加傾向にある。また、拠点としての自立化については、引き続き対応を強化していく。 ・がんゲノム医療中核病院としての活動を推進した結果、中国四国地方にとどまらず東京都、長野県、兵庫県、熊本県の全21施設が関連病院となった。また、臨床研究中核病院及び橋渡し研究戦略的推進プログラムと連携したネットワーク構築や人材育成など、中国四国地方の特色ある拠点として活動を行った。 ・研究開発戦略委員会において、各種補助金の公募状況について情報共有するとともに、科研費については振り返り添削、予備添削を実施し、引き続き科研費採択に向けた取り組みを行った。また、メディカルオープンイノベーションプラットフォームを推進するためのWGを設置、区分会計の試行的実施など、事業費獲得に向けた取り組みを行った。 ・引き続きクロスアポイントによりコーディネータを雇用し、医療系本部の活動強化を図るとともに、連携機構の強化を図るため研究推進体制の見直しを行っているところである。
②-2 年度計画との関連 年度計画に沿っている。	②-2 大学全体への貢献 第Ⅲ期「橋渡し研究戦略的推進プログラム」の拠点機能を強化したことで、中国四国地区の大学間連携が強化され、その結果、学外シーズ数及びシーズ割合が上昇した。
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標 ①特定臨床研究に関する論文数の増加 ②橋渡し拠点において支援するシーズ数、学外支援施設の増加 ③特許申請数の増加 ④外部研究資金の獲得件数と金額の増加。 ⑤国際共著論文数	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 おおむね達成した。特に橋渡し拠点における学外シーズについては、昨年度の75件(64%)から94件(65%)に増加した。

③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標 第3期中期目標・中期計画の3年目として社会貢献領域の目標を設定する。 ①国立六大学によるグローバル教育・研究の充実・強化への積極的かつ主体的参画: ミャンマー医療人材育成支援のためのプログラムに積極的に参加する。 ②CMA-Okayama構想実現に向け活動を病院と連携しながら推進する。	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 ①国立六大学国際連携によるミャンマー国医療支援事業については、2019年9月プロジェクト終了に向けて、基礎系分野では、日本での研究生活の集大成として、2019年4月に博士号取得後の長期研修員12名による研究論文報告会を開催するに至っている。一方、臨床系分野では、最終年度受入の研修修了生による普及セミナーの実施を計画している。さらに、本年8月には、プロジェクト全体の締めくくりとして、閉会式ならびに第4回合同調整委員会を開催する予定で準備を進めている。また、国立六大学国際連携によるミャンマー国医療支援事業から、更なる発展を目指して、新たに、ミャンマー医学教育強化プロジェクト(OMMC)を開始した。本事業は、JICAとJACE(日本臨床工学技士会)の連携事業であり、ミャンマーにおける医療機器を取り扱うME育成体制の強化を図ることを目的としたプロジェクトである。本プロジェクトに迅速な対応を目指して、6月、ミャンマー医学教育強化プロジェクト事務局を設置し事業展開を推進している。 ②CMA-Okayama構想実現に向けて、岡山市内に病院をもつ6団体で構成する岡山医療連携推進協議会が岡山経済同友会、岡山商工会議所との共催で昨年11月6日、持続可能な医療の提供をテーマにしたシンポジウムを開催した。また、CMA-Okayamaによる連携の実質化を目指して、5病院との連携事業の状況及び各法人の意向等を踏まえつつ、岡山医療連携推進協議会にて検討を進めている。また、一般社団法人OUMC及び一般社団法人岡山大学病院からの退会に向けて、関係各位との協議を進めている。
③-2 年度計画との関連 年度計画と合致する取り組みである。	③-2 大学全体への貢献 病院と協力して積極的な取り組みを行っており、大学全体の方針に大いに貢献している。
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標 ①ミャンマーよりの医留学生・短期研修生受け入れ数の増加 ②CMA-Okayama構想のための具体的な連携内容の確定、病院別法人化のための制度設計の具体化	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 ミャンマーからの受け入れは安定化している。CMA-Okayama構想では、病院等との連携によりおおむね達成されている。
④管理運営領域	
④-1 目標 上記①②③の目標達成に向けた ①部局運営体制の強化・活性化を推進する。特に、各学系との横の連携を深化・進化させるため従来の会議体においてPDCAサイクルを用いた目標の工程管理を行う。 ②効率的・戦略的な予算配分・執行のため、各講座単位での具体的な課題、問題点を把握する。 ③安全衛生に対する配慮のため、職場巡視、ストレスチェック等を推進するとともに啓発活動を行う。 ④施設整備の推進について、関連事務局との連携を行い中長期的なプラン策定のための調査を行う ⑤法令遵守の徹底について、種々のコンプライアンス関連の講習会等を計画的に実施する。 ⑥保健学研究科との統合に関する議論を加速し一定の方向性・コンセンサスを得る。	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 ①医療系キャンパス(薬学系・ヘルスシステム統合科学研究科含む)に係る共通的問題・課題等の検討・調整並びに内部統制の機能を持つ医療系拡大部局長室会議(構成一各部部长・病院長)において、組織目標の達成状況とともに、ヘルスシステム統合科学研究科設置に合わせて開始された「先端病院実習」、医学部創立150年記念事業、SDGs達成などの進捗状況等PDCAサイクルを活かした各種取組に対する工程管理を継続的に行っている。 ②近年、運営費交付金における基盤経費が年々抑制されている現状を鑑み、予算配分・執行の課題等検証を行った。本年度に関しては、決算前ではあるが、研究科の経営努力もあり、長年の赤字経営から脱却し、予算繰越を含めた黒字経営の実現が予想されている。 ③安全衛生に関連した職場巡視に帯同し、安全衛生環境の状況把握に努めている。また、ストレスチェックに関しては、メンタルヘルス対策を重要な課題として捉え、ストレスチェックの受検率を上げるため、諸会議やmail等で受検依頼を繰り返し発信するなど、積極的な啓発活動を行った。 ④施設整備については、旧生化学棟改修、基礎医学棟取り壊し、歯学部棟改修、保健学科棟改修等々、課題が満載していることから、研究科等が保有する建物の利用状況把握を行った結果、狭隘度の高さや空きスペースの少なさが改めて浮き彫りとなった。特に、基礎医学棟に関して、2020年度末には、使用停止する必要があることから、逃げ地確保等当面对策とともに鹿田キャンパス施設整備将来構想の見直しを踏まえ、医学系長を中心とした検討組織として「医学系教育研究スペース検討WG」を2月に立ち上げ、鋭意検討を進めることとした。 ⑤本部主導で開催の個人情報保護法・情報セキュリティ研修については、積極的な参加を諸会議等を通じて職員に働きかけを行った。特に、コンプライアンス上、重要となるハラスメント防止については、全学のハラスメントの防止等に関する講演会に合わせて、医療系キャンパス独自のハラスメント講演会を平成30年10月11日(木)に開催した。 ⑥保健学研究科との統合については、医学部運営会議の中で議論の進捗や問題点について継続的に協議を行っている。特に、本年度は、ヘルスシステム統合科学研究科の新設や保健学研究科における教員の削減計画等の進捗状況及び今後の動向を踏まえ、保健学研究科との統合に関する影響力や課題等について協議し、文部科学省等の動向をも注視しつつ、継続協議することとした。
④-2 年度計画との関連 年度計画と密接に関連している。	④-2 大学全体への貢献 全学の組織目標に紐付けしつつ、部局運営体制の強化等積極的に取り組んだ結果、大学の目標達成に関して積極的に貢献できた。
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標 ①コンプライアンス関連の講習会の実施 ②各講座における予算執行状況の把握と課題の抽出 ③ストレスチェックの実施率 ④保健学研究科との統合に関するコンセンサスの作成	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 指標についてもおおむね達成されている。情報セキュリティe-Learning受講率81%、研究倫理教育受講率90%、公的研究費等の不正防止に関するコンプライアンス研修受講率62%
【総括記述欄】	
種々の年度目標は十分に達成されていると判断できるレベルに達していると考え。教育・研究・診療を含む社会貢献についてはそれぞれの所管部署との円滑なコミュニケーションとガバナンス体制の構築を基盤とした良好な管理運営体制が構築されている。	